

私のパワー、魅せつけましょう。

第12回 滋賀県施設合同企画展 ing... ～障害のある人の進行形～



ing...
～障害のある人の進行形～

前期 2015年 11/28 土 ▶ 2016年 1/11 月祝
後期 2016年 1/15 金 ▶ 2/14 日

第12回滋賀県施設合同企画展

- 滋賀県内 28 カ所の福祉施設と 2 つの特別支援学校、
NO-MAが合同で企画・展示
- 39 人の日々の中から生まれるアートを、
二期にわたりじっくりご覧いただける展覧会
- 目で楽しむ、耳で楽しむシゲキ的な世界「ing スーパーリサイタル!!」
※関連イベント欄[4]をご参照ください。

※ 記事を掲載していただける場合、読者プレゼント用に招待券をお渡しできます。

お問い合わせ / 掲載用写真貸出・取材

第12回滋賀県施設合同企画展事務局

(ボーダレス・アートミュージアムNO-MA)



広報担当/山田、渡邊

〒521-1311 滋賀県近江八幡市安土町下豊浦 4837 番地 2

社会福祉法人グロー (GLOW) ～生きることが光になる～

Tel 0748-46-8100 Fax 0748-46-8228

E-mail kikaku@glow.or.jp <http://www.no-ma.jp>

企画趣旨	<p>本展は、滋賀県内の障害のある人たちが作った作品を、福祉施設と特別支援学校、ボーダレス・アートミュージアムNO-MAが実行委員会を組織し、企画・展示を行う展覧会です。</p> <p>今年12回目を迎える「滋賀県施設合同企画展」は、滋賀県内28か所の福祉施設と2つの特別支援学校が参加しました。</p> <p>障害のある人の日々の生活に寄り添う職員ならではの目線で、独自の世界感や表現を集めた本展は、39人の作者の作品を2期にわたりご紹介します。本展を通して、今この瞬間のing～（進行形）の表現を感じてみてください。</p>
展覧会名	第12回滋賀県施設合同企画展 ing・・・～障害のある人の進行形～
会期	前期：2015年11月28日（土）～2016年1月11日（月・祝） 後期：2016年1月15日（金）～2月14日（日）
開館時間	11：00～17：00
休館日	月曜日（ただし、祝祭日は開館し、翌日休館）、12月29日（月）～1月5日（月）（年末年始休）、1月12日（火）～14日（木）（展示替えのため）
観覧料	一般200円（150円）、高大生150円（100円） ※（ ）内は20名以上の団体料金 中学生以下・障害のある方と付添者一名無料
主催	第12回滋賀県施設合同企画展実行委員会 ボーダレス・アートミュージアムNO-MA （社会福祉法人グロー [GLOW] ～生きることが光になる～）
後援（予定）	滋賀県、滋賀県教育委員会、近江八幡市、近江八幡市教育委員会
協力	一般社団法人近江八幡観光物産協会、NPO法人しみんふくし滋賀
助成	障害者の芸術活動支援モデル事業（厚生労働省補助事業）
出展施設	[前期] あそしあ、伊香立の杜 木輝、さくらはうす、滋賀県立近江学園、滋賀県立三雲養護学校、信楽青年寮、社会就労センターあおぞら、社会福祉法人おうみ福祉会 おうみ作業所、社会福祉法人ノエル福祉会 ぽかぽか、バンバン、ふくらの森、蛍の里、やまなみ工房、わになろう [後期] かいぜ寮、救護施設 ひのたに園、きらり庵、工房和楽、湖北まこも、しあわせ作業所、滋賀県立信楽学園、滋賀県立野洲養護学校美術クラブ、杉山寮、ステップアップ21、ステップ広場ガル、能登川作業所、びわこ学園医療福祉センター野洲、みどり園
協力施設	にっこり作業所、彦根学園
アドバイザー	アサダワタル（日常編集家） 中野裕介（美術家・パラモデル）

関連イベント

1. オープニングイベント

作者と一緒に展覧会の開催をお祝いしませんか？施設職員によるギャラリートークでは作者へのインタビューも交えながら作品の制作背景などを紹介します。

【Part.1】日時：2015年11月28日（土）13：30～14：30

【Part.2】日時：2016年1月16日（土）14：30～15：30

会場：ボーダレス・アートミュージアムNO-MA

参加費：観覧料のみ

定員：20名（要予約）



※昨年度の様子

2. 作品鑑賞プログラム「作品の魅力を発見する様々な視点」

細馬氏と一緒に話しをしながら、本展を観て回ります。作品の魅力を紐解き、それらをみんなと共感し合うための様々な視点や手法を体験していきます。

日時：2015年12月19日（土）13：30～14：30

講師：細馬宏通（人間行動学者・滋賀県立大学教授）

会場：ボーダレス・アートミュージアムNO-MA

定員：20名（要予約）

■細馬宏通 プロフィール

1960年西宮市生まれ。人間行動学者・滋賀県立大学教授。日常会話における身体の動きを研究している。また、絵はがきや塔、ステレオ写真、パノラマ館、アニメーションなど、視覚文化史に関する著書が多い。著書に『絵はがきのなかの彦根』（サンライズ出版）、『今日の「あまちゃん」から』（河出書房新社）、『うたのしくみ』（ぴあ）など。NO-MA、滋賀県立近代美術館、大阪成蹊大学などでアール・ブリュットに関するトークショー、講演、ワークショップに出演している。

3. 講演「障害者の作品の魅力と可能性について」

美術家であり、障害のある人の作品公募展「ぴかつ to アート展」の審査員を務める今井氏と本展のアドバイザーを務める中野氏に、実行委員が聞き手となりお話を伺います。

日時：2016年1月16日（土）13：00～14：15

講師：今井祝雄（美術家・成安造形大学名誉教授）、中野裕介（美術家・パラモデル）

会場：奥村邸（NO-MAを出て右に約20m）

定員：30名（要予約）

■今井祝雄 プロフィール

美術家・成安造形大学名誉教授。1965年から1972年解散まで具体美術協会会員。ボーダレス・アートミュージアムNO-MA 懇談会座長。

1966年第10回シェル美術賞1等賞受賞。以来、パリ青年ビエンナーレはじめ、東京国立近代美術館など内外の企画展に出品。1980年以降は主にパブリックアートとして、新大阪駅前ほかに彫刻、モニュメントを制作。阪神淡路大震災の翌年には、『創造にむけてのガレキ』展を開催するなど、アートからの社会的展開を実践。

■中野裕介 プロフィール

美術家。本展のアドバイザー。アートユニットパラモデルのメンバー。パラモデルは東大阪出身、京都市立芸術大学出身だった、林泰彦と中野裕介の二人により、2001年に結成。2003年以降「パラモデル」を名乗る。主な個展に「パラモデル展: paramodel exhibition」(高知県立美術館、2007)、「パラモデルの世界はプラモデル」(西宮市大谷記念美術館、2010)など。中国、インドネシア、スイス、リトアニアなど、国内外でのグループ展多数。

4. 「ing スーパーリサイタル！！」

～僕らの終わらないステージ。でも(内容は)気分によって変わります～

本展には言葉や音楽で表現された作品があり、それらは作者の日常の中で生まれています。普段の生活の中から生まれるその言葉や演奏などを集めたステージを、出演はもちろん進行や演出も、障害のある人と施設職員らで一緒につくりあげます。ing 展初の試みとしてのパフォーマンスイベントをお楽しみください。

日 時：2016年2月13日(土) 13:30～15:00 (アフタートークあり)

会 場：酒游館(近江八幡市仲屋町中6)

参加費：無料

定 員：50名(要予約)

5. 常設ワークショップ

上記4の「ing スーパーリサイタル！！」に向けて、展示会場に設置されたお立ち台や衣装を来場者の皆さんにデコレーションしていただきます。

日 時：会期中の開館時間

会 場：ボーダレス・アートミュージアムNO-MA

参加費：観覧料のみ(予約なしでご参加いただけます。)

※詳細やその他イベント情報は、NO-MAホームページでもご案内します。

イベントのご予約・お問い合わせはボーダレス・アートミュージアムNO-MAまで

[前期]作家紹介（一部）

撮影：大西暢夫



「恐竜」

制作年：2015年

素材：色鉛筆、紙、ボールペン

鵜飼 結一郎 Yuichiro UKai

1995年生まれ

彼が描くものは、休憩時間にいつも眺めている大好きな図鑑から選んだ昆虫や動物、恐竜である。描き方は独特で、モチーフをひとつ描くと、その絵に重ねるように同じ対象の生物を次々と描き、重ねるにつれ絵に奥行が生まれる。表情や動きはそれぞれ違い、生物がまるで群れになって行動しているかのような錯覚を覚える。絵画だけでなく立体作品にも取り組む彼は、絵で描く生物をそのまま陶土でも表現し、粘土の固まりを手にとると、まるで鉛細工のように手足、首部等を器用に伸ばし丁寧に成形しながら一体をほんの数分で完成させる。

（早川弘志/やまなみ工房）



無題

制作年：2014年

素材：紙、クレヨン

小川 秋夫 Akio Ogawa

1951年生まれ

彼はにこやかに笑いかけ「（これ）ええか？」と隣に座るスタッフに話しかけ会話を楽しむ。モチーフは活動に参加しはじめた時から変わらず「ワシ（本人）」を描く。周りの影響を受け、「ワシ」が「花」になったり「鳥」になったりする。しかし最近の「ワシ」は、途中からその存在が消えていく。「ワシ」を描いた後、数多くの色のクレヨンから1色を選び、「ワシ」を昇華させるかのように左から右へ、上から下へさまざまな方向で丁寧に塗りつぶされていく。彼は若い頃、左官職人だった兄の助手として、壁塗り作業を目の前で見っていたそうで、画面を隅々まで塗る丁寧な仕事ぶりは、そこに起源があるのかもしれない。

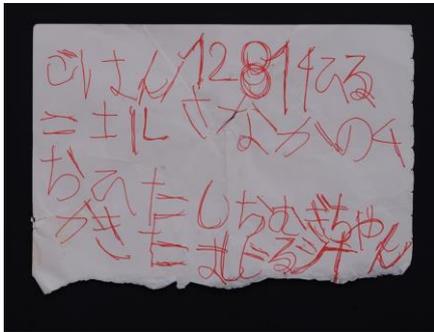
（亀井友美/わになろう）

この資料の画像・テキスト等の著作権は、当ミュージアムや個人、協力団体に帰属します。

資料の情報を事前に許可なく、複製等の行為をすることはかたくお断りします。

[前期]作家紹介（一部）

撮影：大西暢夫



「こんだて」

制作年：2015年

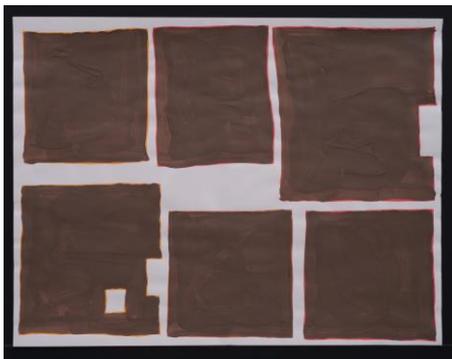
素材：コピー用紙、鉛筆、色鉛筆

奥山 有記 Yuki Okuyama

1977年生まれ

毎日、玄関の決まった場所や彼のロッカーには張り紙がある。それらには多くの言葉や数字、決まったフレーズが並んでいる。日記のようでもあるそれらには彼の心に留まった言葉や出来事が書かれている。彼は言葉で思いを上手く伝えることは出来ないため、思いが張り紙に表され伝えられている。彼が楽しみにしている日課に給食がある。月初めに貰える献立表をととても大切に持ち帰る。そして、持ち帰った献立表をじっくり眺め、翌日のメニューを紙に書き写す。「どんなご飯かな？」そんな事を思いながら書いているのかもしれない。昼食時、それらをおぼんの横に置き、一つひとつおかずを確認しながら、お皿を並べ食べ始める。一口一口ゆっくり味わいながら、「おいしい」と食事を楽しむのである。

（藤井美沙子/伊香立の杜木輝）



無題

制作年：2013～2014年

素材：紙、水性ペン、アクリル絵の具

篠原 尚央 Nao Shinohara

1981年生まれ

週に1回の美術活動で、ビールをテーマに描いたことがある。その際、グラスから溢れたビールが机に垂れたことで、彼はグラスの周りに紫色の幾何形体を描いた。それがビールかは分からないが、幾何形体シリーズはそこから始まった。最初は季節のテーマに沿って描いていたが、次第にテーマのあるなしに関わらず幾何形体のみを描き続け、時間と共にその形や色が変化していった。初めに水性マジックで形の枠を描き、その後に色を調合したアクリル絵の具で塗り残しが無いようにきれいに枠内を塗りこんでいく。気分が乗らず全く描かない日もあるが、それは彼なりの作品への真剣さ故なのかもしれない。完成した作品には無関心だが、描き切った後の表情は満足感で満ちているようだ。

（山田菜津季/社会就労センターあおぞら）

この資料の画像・テキスト等の著作権は、当ミュージアムや個人、協力団体に帰属します。

資料の情報を事前に許可なく、複製等の行為をすることはかたくお断りします。

[前期]作家紹介（一部）

撮影：大西暢夫



無題

制作年：不詳

素材：たこ糸、さをり糸、毛糸、羊毛

田所 友香理 Yukari Tadokoro

1983 年生まれ

作業中、歌を歌ったりお喋りしたり…手よりも口の方がよく動く。そんな彼女が織った作品はまるで彼女自身のようなようだ。色も素材も自由、正解はない。その時に感じたままに織っていく。織物はあまり好きではない彼女だが、作品はどれも彼女独特の世界が表現されていて、ダイナミックなものばかり。見ていると、どんどん彼女の世界に引き込まれてゆく。ガンガン、ドンドン…今日も賑やかな音が鳴り響き、彼女が思うままに自身を織っていく。

(天野夏美/さくらはうす)



「動物」

制作年：2015 年

素材：スケッチブック、色鉛筆

舟橋 慶 Kei Funahashi

1966 年生まれ

本展への出品は、今回で 3 回目となる。それぞれが印象に残る作風である。彼はほぼ毎日絵を描くが、時に個性的な動物を描くことがある。粘土の活動は数ヶ月に一度あるかないかの頻度だがよく参加している。今回は絵と立体を一緒に出品とした。彼は独特な表情の動物を描くが、粘土で動物を作ろうとするとイメージが湧きにくかったようで、困りながら作っていた。しかし、自らの描いた動物の絵を見ながら、立体を作り出した。出来上がった作品は、立体作品でありながら、平面的であり個性的であった。しかし、平面的であった作品も、ヒントを掴むと徐々に立体的な動物となっていった。

(馬場啓介/蛍の里)

この資料の画像・テキスト等の著作権は、当ミュージアムや個人、協力団体に帰属します。

資料の情報を事前に許可なく、複製等の行為をすることはかたくお断りします。

[後期]作家紹介（一部）

撮影：大西暢夫



天上王江具足

制作年：2015年

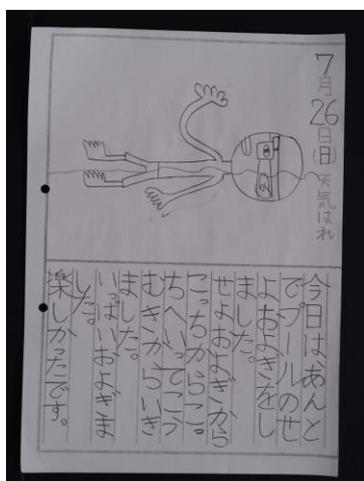
素材：段ボール、色画用紙

S・A

1997年生まれ

「一番好きな武将は、織田信長」と自作の甲冑姿で語る彼は、正真正銘の戦国マニアである。戦国時代の武将の生き様に憧れ、武将たちの栄光の証である城の装飾や武将たちの装いに魅せられた。その想いは熱く、いつの間にか自分で創作するようになったのである。頭の中に浮かんでくる設計図を形にすべく、夜通し作業に取り組むこともある。出来上がった作品は、城の模型や指先サイズの城内の飾りのものから、等身大の装着可能な甲冑まで様々で、時には袈裟まで縫いあげる。そんな作品たちを友だちや先生に披露する時は、自信に満ち溢れ、顔が輝く。作品を人に見てもらったり、着用してもらおうことが彼の「人とのつながり」のひとつとなっている。

(山本由香里/滋賀県立野洲養護学校美術クラブ)



「夏休みの日記」

制作年：2015年

素材：紙、鉛筆

木村 圭吾 Keigo Kimura

1997年生まれ

彼は絵を描くことが大好きだ。どんなに心が乱れているときでも「絵を描く？」と訊くと「描く」と応える。描く題材は大好きな「ジブリシリーズ」「電車」「タイの風景」など様々である。彼の描き方は、独特で背景に重ねるように自分を描く。今回出展した「夏休みの日記」にも所々そんな絵がある。そしてある程度、行動パターンが決まっているせいか絵も「泳ぐ自分」「鉄道を見る自分」「走る自分」のパターンでポーズが決まっているのが面白い。油絵の作品は夏休みの日記の「絵を描く自分」の中で描いていた絵の一つである。

(山本由香里/滋賀県立野洲養護学校美術クラブ)

この資料の画像・テキスト等の著作権は、当ミュージアムや個人、協力団体に帰属します。

資料の情報を事前に許可なく、複製等の行為をすることはかたくお断りします。

[後期]作家紹介（一部）

撮影：大西暢夫



ドンキーコング

制作年：2015年

素材：陶土、釉薬

楠 舞子 Maiko Kusunoki

1977年生まれ

彼女は普段、生活介護とホームヘルプを利用されている。生活介護では、漢字の書き取りをされている事が多く、職員に丸付けをしてもらい、正解が多いとにっこりと笑顔になる。また興味がある事が多く、日常では、カラオケや映画など外出して過ごされることが多い。造形活動では、陶芸をされ、彼女の作品は独特でトーテムポールを思わせるような作品となる。またその作品には「ジェイソンさん」のようなユニークな名前が付けられている。

(久保田匠/ステップアップ21)



無題

制作年：2015年

素材：粘土

西野 拓巳 Takumi Nishino

1971年生まれ

彼の日常生活の中には、様々なこだわりや儀式的行動があり、時にはトイレに1時間以上こもってしまうことがある。活動開始前にトイレに行き、排尿後、気持ちを切り替えてから活動に取り組む。活動中は、先頭で皆を引っ張りつつ活動をこなし、全体の終了の合図が出た後にもう一度運んでから終了する。活動後は開始前同様にトイレに行き、排尿を終えて気持ちを切り替えて活動が終わる。絵画では絵の具や色鉛筆、クレヨン等を使いながら、縦横にこまめに塗っていく作品や様々な色を使いながらカラフルにしていく作品がある。ねんどでは、蛇状にしたいくつものねんどを積み重ね「脳」のような作品を作ったり、蛇状のねんどを並べそれに竹串等使い模様をつけていく作品がある。

(膳 伸伍/ステップ広場ガル)

この資料の画像・テキスト等の著作権は、当ミュージアムや個人、協力団体に帰属します。

資料の情報を事前に許可なく、複製等の行為をすることはかたくお断りします。

[後期]作家紹介（一部）

撮影：大西暢夫



無題

制作年：不詳

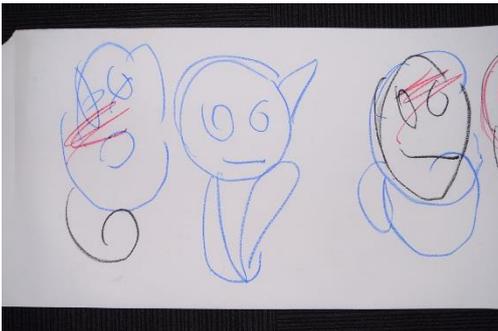
素材：紙、水性ペン、色鉛筆

平野 義明 Yoshiaki Hirano

1957 年生まれ

昔から絵を描くことが好きだった。手持ち鞆の中にはノートにペン、色鉛筆。日中活動に時間を費やすことが多い。好きなキャラクターはウルトラマンで人形や絵本などを多く所有している。絵を描くこと以外に文字を書くことも好み、一時は自身でノートに線を引き、彼特有の単語を書き連ねることもあった。現在、日中活動では布絵に取り組んでいる。一筆一筆絵の具で丁寧に描き進め、長い時間をかけて一つの作品が仕上がる。かつてはよくウルトラマンの絵を描いていたが、年を取るにつれて彼の描く絵は変わってきた。何だか人間らしくどこか優しい人間味が表れているような気がする…。

(玉木敦子/杉山寮)



無題

制作年：2014 年

素材：紙、クレヨン

(画像は作品の一部)

戸次 公明 Komei Bekki

1952 年生まれ

粘土作品は度々注目を集めることの多い彼だが、絵を描くことも好きで、昔から日常的に絵を描いている。描かれるものは「ひと」であったり「まんじゅう」であったりさまざまである。今回は長いロール紙、クレヨン、油性ペンを準備し、活動内で自由に描いた。「○○さん描くわ」「ケーキ」などぶつぶつ言いながらすごいスピードで描きあげていく。さっき描いた絵の上に戻り、さらに重ねて描くこともある。そうして描いた絵はあっという間に何メートルもの長さになった。

(貫井梨英/びわこ学園医療福祉センター野洲)

この資料の画像・テキスト等の著作権は、当ミュージアムや個人、協力団体に帰属します。

資料の情報を事前に許可なく、複製等の行為をすることはかたくお断りします。

第12回滋賀県施設合同企画展

広報用画像の使用申込書

本展の広報用画像を12点ご用意しております。作家紹介の画像をご覧ください。

ご希望の際は下記申込用紙に必要事項をご記入の上、FAX又はメールにてお申し込みください。

なお、写真の使用に際し、以下の点をご注意ください。

① キャプションは、作家名、作品名、制作年、撮影者名（大西暢夫）を必ず表記ください。

② 作品のトリミング、文字載せはお控えください。

本展記事をご紹介頂く場合には、恐れ入りますが情報確認の為に校正、掲載誌（紙）、DVD、CD等をお送り下さい。

媒体名：『 _____ 』

種別： TV ラジオ 新聞 雑誌 フリーペーパー

ネット媒体 携帯媒体 その他

発売・放送予定日： _____

御社名： _____

ご担当者名： _____

Eメールアドレス： _____

@ _____

(〒 _____)

ご住所： _____

お電話番号： _____

FAX： _____

ご希望の図版番号に○をおつけください。

[前期]

① 鵜飼 結一郎「恐竜」(2015年)

② 小川 秋夫 無題 (2014年)

③ 奥山 有記「こんだて」(2015年)

④ 篠原 尚央 無題 (2013年～2014年)

⑤ 田所 友香理 無題 制作年不詳

⑥ 舟橋 慶「動物」(2015年)

[後期]

⑦ S・A「天上王江具足」(2015年)

⑧ 木村 圭吾「夏休みの日記」(2015年)

⑨ 楠 舞子「ドンキーコング」(2015年)

⑩ 西野 拓巳 無題 (2015年)

⑪ 平野 義明 無題 制作年不詳

⑫ 戸次 公明 無題 (2014年)

プレゼント用ご招待券をご希望の場合は✓をおつけいただき、枚数をご記入ください (10枚まで) (□ 枚)

お問い合わせ / 掲載用写真貸出・取材

第12回滋賀県施設合同企画展事務局

(ボーダレス・アートミュージアムNO-MA)



広報担当 / 山田、渡邊

〒521-1311 滋賀県近江八幡市安土町下豊浦 4837 番地 2

社会福祉法人グロー (GLOW) ～生きることが光になる～

Tel 0748-46-8100 Fax 0748-46-8228

E-mail kikaku@glow.or.jp